

国立病院機構熊本医療センター

2011 No.163



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

謹賀新年

新年の御挨拶

国立病院機構熊本医療センター

院長 池 井 聰



明けましておめでとうございます。

旧年中は多方面にわたりご指導、ご支援を賜りまして誠にありがとうございました。職員一同、心よりお礼を申し上げます。

昨年は新病院での診療もようやく軌道に乗り、日常の診療業務を滞りなく行えるようになりました。しかし残念なことに耳鼻咽喉科の医師が昨年末で欠員になり、本年より休診することとなりました。先生方にはご迷惑をお掛けして誠に申し訳ありません。今後も耳鼻咽喉科の再開において医師の確保に努力する所存です。

工事関係では、年末に旧病院跡地に駐車場が完成しました。ただ、今後正面玄関前のロータリーの上へヘリポートの建設工事が始まりますので、工事用車両の出入りや資材置き場等の関係で駐車場の全面開放にはもうしばらく時間が必要になります。いましばらく、ご不便をお掛けしますが何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

良好な医療連携を維持する為には情報の共有が不可欠ですが、医師、看護師等が先生方に情報を提供する十分な時間と余裕がない状況がありました。これらを少しでも解決するために昨年より医師事務補助員(ドクタークラーク)と病棟クラークを置くことにしました。これらのクラークは教育中で、まだ十分な成果はあがっていませんが、近い将来には医療連携を支える力となってくれるものと期待しています。

本年も職員一同、先生方のご指導のもと最新の知識・医療技術と礼節をもって良質で安全な医療を目指してまいります。

本年もよろしくご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

本年が良い1年になりますよう祈念申し上げます。

2011年元旦



医のサイエンスの最高峰 —熊本医療センター—



しまだ内科クリニック
院長 島田 達也

新たな年を迎えると同時に、私も開業6年目に入りました。

8年前まで熊本医療センターに勤務した後の開業でしたが、当時は慌しいなかにもそれまでの経験を活かし自分の得意とする分野や地域医療に専念しようという思いで一杯でした。その思いは今も変わらず、毎日コツコツと患者さんの診療に勤しんでいます。

時々、勤務医時代とは異なり毎日同じことの繰り返しで単調な印象を持つこともあります。今思うと、病院勤務では外来や各病棟を廻るといったフットワー

クに加え多くのスタッフの方との意見交換や雑談などが単調さを緩和してくれていたのでしょうか。機会を見つけて三木会や月曜会などの会合に出て交流を深めることも精神衛生上大切なことではないかと改めて実感しています。

さて患者さんは医師に、医のアートである豊かな人間性と医のサイエンスである医師が具備すべき実力を望んでいます。私も開業医として、地域の患者さんの心を癒すケアやコミュニケーションを確立するよう、また患者さんがもつそれぞれに異なる体質・性格・死生観などを知り患者さんの心の支えとなれるよう医のアートを磨くべく、また医療知識や技術である医のサイエンスを習得し実践すべく努めてはいるつもりです。しかし、今日のような日進月歩の医療のなかにあって、一人ですべての医療をこなすことは不可能であり、また自分でカバーできない領域も多々あります。そのような時、自分の置かれた立場や限界を知り、より高度な医のサイエンスを担う信頼ある病院へ紹介することは、医師の大切な役割であると考えています。そこで最も頼りに出来るのが、多数の診療科に専門医が豊富で、24時間体制の救命救急センターを有し、最先端医療を実践されている熊本医療センターであり、私もその登録医となっていることに幸せを感じます。

二の丸の高台に周囲の景観と調和して立つ熊本医療センターは、私にとって医のサイエンスの最高峰に立つ医療機関であると信じています。

第30回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催予定のご案内

標記連絡会につきましては下記の日程を予定しています。

- 日時：2011年2月26日(土) 18時30分～21時00分(予定)
場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センターホール
内容：(1) 開放型病院連絡会総会
1) 病院からの連絡事項
2) 質疑
(2) 特別講演

厚生労働省 大臣官房

厚生科学科長 塚原 太郎 先生

〈連絡先〉国立病院機構熊本医療センター管理課(高倉、横尾)

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 電話 096-353-6501 内線2313

平成22年度 第2回開放型病院運営協議会開催される

平成22年度第2回目の国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が平成22年12月9日（木曜）午後7時より当センター会議室で開催されました。協議会には委員として熊本市医師会より医師会長の福島敬祐先生、副会長の加来 裕先生、担当理事の田中英一先生、家村昭日朗先生がご出席いただき、当院より池井院長、河野副院長、野村統括診療部長、片淵地域医療連携室長が出席いたしました。院長より、医師会長はじめ医師会委員の先生方に日頃の御礼を述べ、続いて福島委員長よりご挨拶をいただきました。議事に移り、事務局より開放型病院利用状況、開放型病院登録医数、訪問医師数、共同指導数などを報告しました。次いで第29回開放型病院連絡会（平成22年9月2日）の参加者数、「くまびょうニュース」の発行状況について報告しました。第29回連絡会には多数の参加があり、ご参加の皆様には改めて御礼申し上げます。次の協議事項では、平成22年度第2回（通算30回）開放型病院連絡会の開催について協議され、平成23年2月26



開放型病院運営協議会の様子

日（土曜）午後6時30分より当センター2階の地域医療研修センターホールで開催されることが決定しました。全体会議では担当診療科による症例呈示、当センターからの連絡事項、質疑などを行い、特別講演は、厚生労働省大臣官房 厚生科学科長 塚原 太郎先生にお願いすることになりました。次回の開放型病院連絡会に多数の先生方、スタッフの皆様がご参加いただきますようお願い申し上げます。

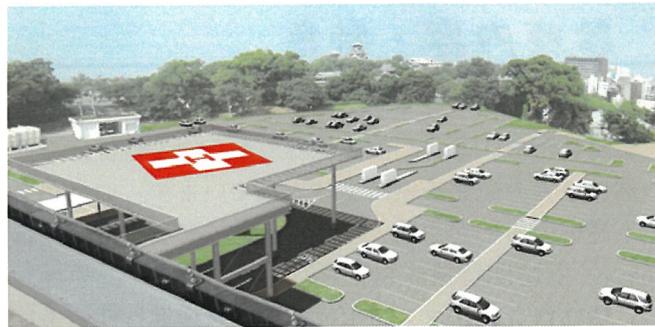
（副院長 河野 文夫）

● 駐車場利用方法の変更について ●

駐車場整備の開始から約1年、この度、ようやく旧病棟跡地に約520台が収容可能な駐車場が完成し、1月中旬には全面的に共用開始となります。病院玄関口の左手から垂直に延びた約42mの白い屋根付きの車寄せにより、雨に濡れずに玄関口まで行くことができます。また、この車寄せの熊本城側には「車椅子利用者専用駐車場」を7ヶ所設置しております。全体的に熊本城の一角という地域性を考慮し、植栽帯を多く確保する等、環境にも優しいレイアウトになっており、何より、来院の方々の利便性が格段に向上するものと期待しております。



屋上から見た駐車場全景（平成22年12月20日現在）



ヘリポート完成イメージ図

なお、1月下旬からは玄関口前のロータリー周辺を工事エリアとしてヘリポート新築整備が始まる予定です。一旦完成した駐車場ですが、仮設の車道、歩行者用通路及び工事車両進入路等を確保するため、駐車場の利用方法を変更させていただきます。レイアウトなど詳細は施工業者の決定後となりますが、施工に当たっては安全確保を最優先に実施いたします。完成予定の5月末までの間、来院者の皆様方にはご不便とご迷惑をお掛けすることとなりますが、引き続き、ご理解とご協力をお願い致します。

（企画課長 末次 剛輝）



内科医長

富田 正郎腎臓救急・各種血液浄化
急性腎不全・慢性腎臓病 (CKD)

日本救急医学会専門医

日本内科学会指導医

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会専門医・指導医

日本透析医学会専門医・指導医

日本糖尿病学会専門医

熊本大学医学部臨床教授



医師

梶原 健吾腎臓内科 (血尿・蛋白尿・腎炎ネフローゼ・
腎不全・慢性腎臓病 (CKD))
血液浄化・シャント管理

日本内科学会認定医・指導医

日本腎臓学会専門医

日本透析医学会専門医

診療内容・特色

当院が耳鼻科を除くすべての診療科を備えている救急病院のため、耳鼻科疾患以外のあらゆる合併症を持つ透析患者の急患を常時受け入れています。いつからでも透析の対応が可能となるように、緊急透析業務は365日、24時間待機体制で対応しております。急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、急速進行性腎炎症候群、急性腎不全、保存期慢性腎不全に対しても迅速な対応が可能です。腎生検検査も原則として3日間入院のみで検査可能です。日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会の認定施設。

研究実績

活性型ビタミンD製剤による高カルシウム血症、腎不全症例に腎代謝薬剤を常用量使用したことによる中



医師

田尻 景子腎臓内科・血液浄化
シャント管理

日本内科学会認定医

日本腎臓学会

日本透析医学会

毒、ACE阻害薬、ARB、スピロラク톤による高カリウム血症等の症例を調査研究し、薬害が発生することがないように注意を喚起しております。

また慢性腎臓病 (CKD) 対策について熊本市行政や他の基幹病院と連携して、専門医紹介基準作成、病診連携の推進、将来的に透析導入が減ることを目標に、対策を研究しております。

不幸にして致命的経過を辿った臨床症例については可及的に病理解剖を行い病態の解明に取り組んでおります。

診療実績

平成21年度

【透析】

血液透析	4,051件
新規導入透析患者数	74名
急性腎不全透析患者数	33名
腹膜透析	9名

【その他の血液浄化】

持続的血液濾過透析 (CHDF)	263回
吸着治療	115回

【アクセス】

シャント手術	93例
経皮的シャント血管拡張術	62例
シャント造影	27例

【腎炎・ネフローゼ症候群】

腎生検	17件
-----	-----

ご案内

新病院では透析病床は大幅に増床 (10床→20床) され、CAPD室も確保され、一層の機能充実が図られております。腎臓病を通じて熊本地区の地域医療にさらに貢献してゆきたいと存じます。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

第16回 国立病院機構熊本医療センター医学学会開催のご案内

平成23年1月15日（土）

開会の辞

池井 聰（国立病院機構熊本医療センター院長）

8：50～9：00

一般演題Ⅰ「内科系1」

座長：金澤 知徳（青磁野リハビリテーション病院理事長）

9：00～10：00

黒田かえで（国立病院機構熊本医療センター地域医療連携係長）

I-1 皮下出血で発症した後天性血友病

血液内科 鶴野淑恵 樋口悠介 日高道弘 清川哲志 河野文夫

I-2 全身の皮下腫瘍で発症したBlastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm

血液内科 吉津希美 中村美紀 日高道弘

I-3 早期加療開始により奏功した重症慢性GVHD関連口内炎

歯科・口腔外科 片岡奈々美 出来田雅人 佐藤みやこ 蔵本和咲 中島 健

血液内科 井上佳子 長倉祥一 日高道弘

I-4 摂食・嚥下機能改善を目的にリハビリテーション介入した悪性リンパ腫の1例

リハビリテーション科 西崎武文 永田光二郎 榮 彩人 和田真美

血液内科 樋口悠介

I-5 片側胸腔ドレナージにより両側肺虚脱の改善が認められた両側肺気胸の1例

呼吸器内科 岡本知久 柏原光介 山根宏美

I-6 リツキシマブが奏功した血栓性血小板減少性紫斑病の1例

小児科 岡田拓巳 高木一孝 森永信吾 緒方美佳

一般演題Ⅱ「内科系2」

座長：杉 和洋（国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長）

10：00～11：00

田中 幸子（国立病院機構熊本医療センター7階西病棟師長）

II-1 意識障害にて救急搬送となった下垂体機能低下症の1例

糖尿病・内分泌内科 西東洋一 片桐光浩 島川明子 児玉章子 豊永哲至 東輝一朗

II-2 低血糖による意識障害で診断のついた原発性副腎機能低下症合併血液透析患者の1例

腎臓内科 梶原健吾 中西俊人 岩橋 温 田尻景子 富田正郎

糖尿病・内分泌内科 豊永哲至

II-3 肝硬変を伴わない肝性脳症の3例

消化器内科 山田早織 具嶋里香 吉成元宏 尾上公浩 中田成紀 前田和弘 杉 和洋

放射線科 徳永郁香 吉田絵里 富高悦司 荒木裕至 浅尾千秋 吉松俊治

II-4 血清反応陰性関節炎を合併したクローン症の1例

消化器内科 野尻奈央 尾上公浩 具嶋里香 吉成元宏 中田成紀 前田和弘 杉 和洋
 整形外科 福元哲也

II-5 濃厚な家族歴を持つ肺動脈性肺高血圧症の一例

循環器内科 平田快紘 本多 剛 古賀英信 宮尾雄治 藤本和輝

II-6 糖尿病教室参加患者における栄養士からみたアンケート結果の分析ー現状と課題ー

栄養管理室 近藤高弘 前田摩由 阿部真世 大山明子 椿 裕子
 糖尿病・内分泌内科 豊永哲至 東輝一朗

一般演題III 「看護・教育」

座長：鶴田 敏久（国立病院機構熊本医療センター内科医長）

11:00~12:10

荒木美佐子（国立病院機構熊本医療センター附属看護学校教員）

III-1 がん患者と家族のパートナーシップに及ぼす影響要因ーがん患者と家族のQOLとの関連からー

がん看護専門看護師 安永浩子

III-2 造血幹細胞移植病室における看護ケア方法の評価

感染管理認定看護師 吉田真由美 益田洋子

III-3 ICU看護師の不眠時薬使用における判断

ICU病棟 横山留菜 有吉可奈 向井仁美 葦浦幸恵 小宮紀子

III-4 急性期脳卒中患者の誤嚥性肺炎予防への取り組み～咽頭部アイスマッサージ、口腔ケアの有効性～

救命救急センター 小林沙祐理 船場景子 中村めぐみ 三隅夕子 北川貴章 森山ひろみ
 有馬京子

III-5 病棟看護師への治験に対する意識調査について

治験センター 林淳一郎 市下由美 奥山由佳子 山下克也 宮本美穂 正代 敦子

III-6 外来化学療法における患者のQOL向上を目指した副作用対策の検討～Irinotecan投与初期の副作用に対するd-Chlorpheniramin maleateの有効性の検討～

薬剤科 三角紳博 大園ゆかり 平池美香子 平木洋一 舛重正人
 看護部 谷川香代子 高瀬和泉 鍋島 彩

III-7 本校看護学生の在宅看護論実習における学びの様相

附属看護学校 竹下弘子 石原史絵 馬場亜希子 前中由美

昼 食 (12:10~13:00)

一般演題IV 「経営管理・その他」 座長：末次 剛輝（国立病院機構熊本医療センター企画課長）

13：00～13：50

江角 誠（国立病院機構熊本医療センター副臨床検査技師長）

IV-1 経営分析手法を用いた当院のポジショニング

企画課医事 白川 大 中村 敦 前田光一郎 廣瀬浩一 毛利安則 吉岡幸宏

IV-2 急性期病院MSWの業務の考察と課題

地域医療連携室 西迫はづき 木下良子 荒木陽子 橋本珠莉 三浦由江 黒田かえで
片淵 茂

IV-3 当院における骨髓像検査集計解析結果より～血球減少を中心に～

臨床検査科 松本恵美子 山口大輔 藤崎 恵 染矢賢俊 久田正直 鶴田敏久

IV-4 放射線治療部門における患者サービス向上への取り組み

放射線治療センター 中野ちぐさ 倉智翔太 川崎年久 井手口忠光 西本博美

IV-5 VRAD施行患者のHCV-RNA変化について

臨床工学技士 竹本勇介 佐藤朋哉 北川 哉 新木信裕 川内 直 田代博崇
消化器内科 杉 和洋**一般演題V 「外科」**

座長：蓮田 晶一（慈恵病院 院長）

13：50～15：00

田中富美子（国立病院機構熊本医療センター5階西病棟師長）

V-1 頸動脈におよぶ遠位弓部大動脈瘤に 対するTEVAR手術の一例

心臓血管外科 村田英隆 岡本実 毛井純一

V-2 緊急手術を施行した好酸球性腸炎の一例

外科 福田真世 尾崎宣之 中川茂樹 村田飛鳥 藤原沙織 富樫陽彦 松本克孝
多森靖洋 大堂雅晴 宮成信友 芳賀克夫 片淵 茂 池井 聰

V-3 脾嚢胞破裂に対して緊急脾臓摘出を施行した1症例

外科 楊 拓也 中川茂樹 宮成信友

V-4 定位的血腫除去術と脳浮腫抑制

脳神経外科 中川隆志 大塚忠弘 吉里公夫

V-5 THA（人工股関節置換術）の問題点

整形外科 福元哲也 橋本伸朗 前田 智 中馬東彦 松下任彦 森田 誠 野村一俊

V-6 仮骨延長法を用いて骨延長を行った短趾症の一例

形成外科 万江由希子 東野哲志 大島秀男

V-7 腎後性腎不全を来した尿道周囲肉芽腫の一例

泌尿器科 谷川史城 鍛田知子 瀬下博志 陣内良映 土岐直隆 菊川浩明
庄嶋医院 庄嶋 健

一般演題VI「救急医療・その他」 座長：西村 弘（国立病院機構熊本医療センター産婦人科医長）

15：00～16：00

有馬 京子（国立病院機構熊本医療センター救命救急センター師長）

VI-1 CVC留置後に下大静脈及び心房内血栓を形成した一例

救急科 山田 周 狩野亘平 北田真己 清水千華子 櫻井聖大 宮内大介 橋本 聡
児玉章子 原田正公 高橋 毅

VI-2 最近経験した深部静脈血栓症を合併した卵巣明細胞腺癌の2例

産婦人科 矢野大輔 高木みか 永井隆司 西村弘 三森寛幸

VI-3 当院における急性喉頭蓋炎症例の検討

耳鼻咽喉科 門脇嘉宣 緒方憲久

VI-4 平成21年度に当院救急外来を受診した自傷・自殺未遂・自殺企図症例の背景分析

精神科 橋本 聡 川内伸哉 菊川弘樹 山下建昭 渡辺健次郎
救急科 原田正公 高橋 毅

VI-5 肝肺症候群が疑われた患者の麻酔経験

麻酔科 隈部有理 石村達拓 中山雄二郎 小寺厚志 宮崎直樹 上妻精二
瀧賢一郎 江崎公明

VI-6 非自己免疫性甲状腺機能亢進症が強く疑われた一症例

田尻クリニック 深田修司 中武伸元 田尻淳一
獨協医科大学 菱沼 昭**総評・閉会の辞**

河野 文夫（国立病院機構熊本医療センター副院長）

16：00～ 16：10

第3回 肝疾患地域連携を深める会

この度、第3回肝疾患と地域連携を深める会を下記の要綱にて開催したいと存じます。

何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

【一般講演】

座長：庄嶋医院 院長

庄嶋 健 先生

「患者の視点に立った地域連携クリティカルパスの運用～IFNパスポートの改訂～」

国立病院機構熊本医療センター

看護師

西山 慎吾

薬剤師

平池美香子

管理栄養士

椿 裕子

【特別講演】

座長：国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

杉 和洋

「C型慢性肝炎のウイルス排除及び発癌抑制を目指して～地域連携の重要性～」

霧島市立医師会医療センター 病院長

藤崎 邦夫 先生

日 時：平成23年1月14日（金）19：00～21：00

場 所：ホテルニューオータニ熊本 3F 鳳凰

〒860-0047 熊本市春日1-13-1 TEL 096-326-1111

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋 TEL：096-353-6501（代表） FAX：096-325-2519

新病院施設紹介〈14〉

栄養管理室

栄養管理室は、統括診療部内科部内科に所属し、内科部長の下、管理栄養士5名、栄養士2名、調理師8名、調理助手16名（特別食は委託）の職場です。

昨年9月に新病院に引越し、新たな気持ちでスタッフ一同、「安全で安心、患者様に喜んでいただける食事の提供」を目指し日々努力しています。調理場は、ハサップ方式（原料の入荷・製造・出荷までの工程において、ポイントを継続的に監視・記録し、異常が認められたら対策を取り解決するシステム）の衛生管理により、汚染区域と非汚染区域が明確化し、作業効率を考慮した新しい機具類の配置で、室温25℃以下を保つ空調環境の中で調理作業を行っています。特徴的な食事として一般食は、週2回（木・金）選択メニューの提供を行い、特別食では、小児アレルギー食や、化学療法食として、パン・麺・変わりご飯を工夫したひまわり食や、すずらん食を提供しています。その他、行事食や今年度から始めた郷土料理食を提供していますが、手作りで心暖まる料理を心がけています。また、栄養士と調理師で週1度病棟訪問をし、患者様の声に応えられるよう頑張っています。栄養管理面においては、NSTの充実化、地域連携に繋がる栄養指導が充実するように、チーム医療による患者様の栄養管理に努めています。今後も、満足度が高い食事の提供と、適切な栄養管理の実施を目標に、職員・他のスタッフと連携を取りながら頑張っていきたいと思っておりますので、皆様方のご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

栄養管理室長 椿 裕子



内科部長初め栄養士、調理師です



角煮丼は、選択メニューでも人気メニューの1つです



今年から始めた郷土料理です
熊本食（タカナメシ・だご汁）



検収室です



衣類に付着している髪の毛や糸くず等を取り除いてくれるエアシャワーです



下処理した野菜類は冷蔵庫に入れ、調理場から取り出します



洗米・計量から炊飯までオートシステムです



災害に備えて電磁気、ガス台も設備しています



配膳車に入れ込む作業をしています

研修医レポート

臨床研修医

1年次 さいとう 西東 よういち 洋一



研修医1年の西東と申します。4月から研修が始まり、毎日の業務に慣れることに必死な日々でした。気づけば半年が経っており、研修の4分の1が終わってしまっていました。

私は麻酔科、循環器内科、外科とローテーションさせていただき、糖尿病・内分泌内科にこの文章を書いています。自分の作文力のなさからコンサルトの文章作成などで悪戦苦闘する日々です。

最初のローテーションとなった麻酔科では、実技中心の研修で、ルート確保、挿管、投薬、抜管、吸引などなど、体で覚える内容が盛りだくさんでした。当初はアンプルの切り方も分からず、シリンジで吸う動作や、側管につなぐ動作など、とにかく全ての動作がごちなく指導医の先生方をどれだけハラハラさせたか知れません。

臨床研修医

1年次 のじり 野尻 なお 奈央



こんにちは。研修医1年目の野尻奈央と申します。気付けば研修医1年目も3分の2が過ぎてしまいました。自分はどれくらい成長できただろうかと、これまでの8ヶ月間を振り返る今日この頃です。

私は、これまで呼吸器内科、麻酔科、循環器内科、救命救急部で研修をさせていただき、現在は消化器内科でお世話になっております。4タームを終えてもまだまだ分からない点が多くご迷惑をおかけしてばかりですが、根気強く丁寧に指導してくださる先生方、コメディカルの方々、患者さんとそのご家族に支えていただき、様々な経験、勉強をさせていただきました。その中で、前の科で学んだことが次の科で生かせたり、繋がりがあることに気付いたりといった瞬間がとても

次の循環器内科では麻酔科同様、体で手技を覚える内容として心臓カテーテル検査があります。大腿静脈穿刺から右心カテーテルの一連の流れは研修医の仕事で、今まで触ったこともないサイズの穿刺針は、当初は持って構えるだけでも緊張でした。また、私にとって初めての病棟業務が始まり、それは同時に電子カルテの実践利用の開始を意味していました。第3タームの外科においても同様ですが、一人の患者さんを入院から退院まで診るために、いかに多くの種類の管理が要求されるのか身をもって知らされると同時に、ベッドサイドやカンファレンスで患者さんの情報をすらすらとサマライズできる指導医・上級医の把握力に驚かされました。

現在は第4タームの糖尿病・内分泌内科が終了しようとしています。糖尿病治療は治療であると同時に、教育であると実感させられました。糖尿病を含む生活習慣病の治療は、薬物治療に安易に頼られている現状があるかもしれませんが、最終的に患者さん自身の節制を促す以外に治療はなく、それがこの領域の難しさだと実感しました。

今後のローテートでも、一つでも多くの手技・知識を身につけられるよう努力していきたいと思います。今後ともよろしくおねがいします。

嬉しく、興味深く感じています。また、学んだことや経験したことを同期と報告しあい教えあうことも、私にとってとても貴重で楽しい経験です。

研修させていただいた各科それぞれに異なった特徴、魅力がありましたが、全ての科を通して、職種や科を超えたスタッフ間の協力体制、コミュニケーションの大切さ、患者さん一人一人に合った柔軟な医療を提供することの重要性を感じました。忙しい中で、先生方はじめスタッフの方々が患者さんの背景やゴールを長く広い目で捉え、お互い密に連絡を取りながら細やかな気配りをされていることに驚きと尊敬を覚えています。今はまだ基本を学ぶところから一生懸命取り組んでいる状態ですが、その姿勢を目標に広い視野を持って、一つ一つ着実に身につけながら日々の仕事に取り組んでいければと思っております。日々の経験やご指導していただいたことを最大限生かしていけるよう精進したいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

研修のご案内

第144回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成23年1月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「後天性血友病の2症例」

国立病院機構熊本医療センター血液内科 樋口 悠介

4. ミニレクチャー「胃静脈瘤に対するBRTOについて」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科 具嶋 里香

日頃、ご疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参頂きますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第113回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成23年1月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「低血糖を主訴に入院しACTH単独欠損症と診断された1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

片桐光浩、西東洋一、島川明子、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

2. 「インスリン自己抗体の出現により血糖コントロール不良となった緩徐進行1型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

豊永哲至、片桐光浩、西東洋一、島川明子、児玉章子、高橋毅、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参頂きますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

第8回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成23年1月22日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本県医師会理事

大柿 悟 先生

演題：「貧血の診療」

1. 貧血の診断と検査の進め方

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

日高 道弘

2. 高齢者の貧血について

熊本第一病院内科

松野 文彦 先生

3. 女性にみられる貧血について

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

原田奈穂子

4. 貧血の治療について

西村内科医院 院長

西村 弘道 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第101回 総合症例検討会(CPC)

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成23年1月26日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『痙攣とショックでの緊急入院』

(80歳代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

梶原 健吾

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山 寿彦

「原発性胆汁性肝硬変にて外来通院中であつた患者が痙攣とショック状態で救急搬送となつた。」

* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

2011年

研修日程表

1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修センターホール	研修室	その他
4日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前術後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
5日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
6日(木)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
7日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
8日(土)		15:30~18:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)	
11日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:30 外科術前術後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
12日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
13日(木)		18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
14日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝がん」	8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
15日(土)	8:50~16:00 第16回 国立病院機構熊本医療センター-医学会 19:00~20:30 第144回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定]		8:00~8:30 MGH症例検討会 C2 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
17日(月)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:30 外科術前術後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
18日(火)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
19日(水)	13:00~17:20 平成22年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第1日目)		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
20日(木)	9:00~17:15 平成22年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第2日目)	19:00~20:45 第113回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
21日(金)	9:10~16:55 平成22年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第3日目)		8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
22日(土)	15:00~17:30 第8回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本県医師会理事 大柿 悟 「貧血の診療」 1. 貧血の診断と検査の進め方 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 日高 道弘 2. 高齢者の貧血について 熊本第一病院内科 松野 文彦 3. 女性にみられる貧血について 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 原田奈穂子 4. 貧血の治療について 西村内科医院 院長 西村 弘道		
24日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前術後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
26日(水)	19:00~20:30 第101回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「痙攣とショックでの緊急入院」		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
27日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
28日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
31日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西

研1~3 2階研修室1~3 C1 3階カンファレンスルーム1 C2 3階カンファレンスルーム2 5西 5階西病棟 外来 小児科外来 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター 2階 地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)